

— 法政大学 —

2月14日 A方式II日程 英語

解答・解説

〔I〕

問1 Aニ Bイ Cへ Dホ 問2 (a)ロ (b)ニ 問3 ロハホ 問4 ハ
問5 イニ 問6 ハ

問1 A stretch out 「広がる、伸びる」

B at different times 「異なる(様々な)時間において」

C the soft body of our jellyfish 「私たちのクラゲ(ロボット)の柔らかい体」

D from nature 「自然から」

問2 (a) 水中にあり、プロペラがついている機体から考える。

(b) 第3段落第1文 eight tentacles 「8つの触手」第4段落第1文 The robot also has a hard case on top. 「そのロボットは、上に固い入れ物が付いている」

問3 第3・4段落から判断する。イは第3段落最終文と不一致。ニは第4段落第1文と不一致。

問4 問題文に下線が施された Erik Engeberg の…というのがポイント。ハの内容は本文に記載はあるが、第7段落第1文で発言者は David Gruber となっているので不一致と判断する。

問5 第9段落最終文より判断する。ニの sinking low-lying islands は make low-lying islands disappear に対応。

問6 第10段落から判断する。

〔II〕

問1 Aニ Bホ Cハ Dへ Eロ 問2 (1) Aへ Bイ Cト (2) (a)ロ (b)ホ

問1 A arise 自動詞「起こる、生じる」

B この場合の appear は第2文型「Cのように見える」

C この場合の find は第5文型「OがCだとわかる」

D bend 他動詞「Oを曲げる」後の but が break と並列させ、water surfaces が共通の目的語。

E experience 他動詞「Oを経験する」

問2 (1) A グラフ中 4 persons including 1 earner の 1974 年に注目。

B グラフ中 4 persons including 1 earner の 2017 年に注目。

C グラフ中 1 persons with a job の 2017 年に注目。

(2) (a) 「第2位」という意味でロの second を選ぶ。

(b) 最終文の they は 1 person の with no job の人と、1 person で with a job の人を合わせた人たち。

〔Ⅲ〕

問1 ロ 問2 (1) ニ (2) ハ 問3 ロ 問4 ロ 問5 イ 問6 ホ

問1 the maximum height a person can throw は「人が投げられる最高の高さ」という意味。空欄 X を含む文中 toss は第4文型「O₁にO₂を投げる(ほおる)」

問2 (1) 第3段落第1文から判断する。

(2) 第4段落第1文後半から判断する。

問3 第8段落第2文「もしあなたが裸なら、低体温症に5時間耐えられない」同段落最終文「8時間まで時間が延びる」時間差は3時間。

問4 bundle up で「O(人)を暖かくくるむ」という意味。

問5 Pluto 「冥王星」

問6 両者とも、太陽系の外へ移動していると仮定している。

〔Ⅳ〕

問1 (1) イ (2) ハ (3) ロ (4) ニ (5) イ 問2 (1) ニ (2) イ (3) ハ (4) イ (5) ロ (6) ニ

問3 (1) 2 ロ 4 ニ (2) 2 ホ 4 イ (3) 2 イ 4 ハ

(4) 2 ハ 4 ロ (5) 2 ニ 4 イ (6) 2 ロ 4 ホ

問1 (1) イは第2音節にアクセント、他は第1音節。

(2) ハは第1音節にアクセント。他は第2音節。

(3) ロは第2音節にアクセント。他は第1音節。

(4) ニは第2音節にアクセント。他は第1音節。

(5) イは第3音節にアクセント。他は第2音節。

問2 (1) この場合の over は「優越」の意味を表す。「(能力などが)...より優れて」

(2) 空欄の後が、名詞の欠落のない完全文であることに注目。関係副詞の where が入る。先行詞は many cases。

(3) 要求・提案・命令の意味の動詞(この場合 suggest)の、目的語となる that 節内の動詞の形がポイント。【(should)+V原形】

(4) 文中 that は目的格の関係代名詞。先行詞が something about America。第5文型の find 【OがCだとわかる】

(5) remember は動名詞を目的語にとると「～したことを覚えている」という意味になる。

(6) 仮定法過去完了に。「何も言わなければ良かったのになあ」

問3 (1) I was surprised to hear that some of the most poisonous spiders in the world live in Australia.

(2) At sushi-go-round restaurant, you can choose your favorite sushi by yourself from the conveyor belt.

(3) In Japanese fairy tales, foxes were believed to trick people by disgusting themselves.

(4) Composed of two hydrogen atoms and one oxygen atoms, water is one of the most important resources on the earth and essential for living organisms.

※composed 以下、分詞構文になっている。

(5) The human brain made it possible to develop complex languages and thus pass along new knowledge from generation to generation.

(6) She is the only woman who I have ever been in with.

〔V〕

問 1 (1) ニ (2) ロ (3) ハ 問 2 (1) ロ (2) イ (3) イ (4) ハ 問 3 ニ 問 4 ハ 問 5 イ

問 1 (1) resilient 「(不運・病気などから)立ち直り[回復]が早い」「<物質が>[圧縮に対して]弾力性のある、はね返る」

(2) synthesize の辞書的な意味は「O を総合する」この問題の選択肢の中から選ぶとすれば produce 「O を産み出す」が妥当か。

(3) durability 「耐久性」=permanence 「永続(性)、耐久(性)」

問 2 (1) 第 1 段落第 2 文から判断する。

(2) 第 1 段落最終文から判断する。

(3) 第 3 段落第 1 文から判断する。

(4) 第 3 段落第 3 文と、第 8 段落第 3 文から判断する。

問 3 permanent は「永続する、永久的な」という意味の形容詞。Not で否定しているのだから、つまりは「変わる」ということ。

問 4 a process that takes advantage of chemical exchange with seawater とは「海水との化学変化の利点を生かす過程」

問 5 第 6 段落第 2 文から判断する。

総評

〔I〕

「ロボットを用いた海の生態系の調査」に関する英文読解問題。問1のBが少々判断しづらいが、概ね読みやすい文章。問4は「誰の」研究チームの発言内容かを、しっかり見極めることが肝要。

〔II〕

問1はやや難。ただここであまり停滞せずに、後で考えるなりして別のやりやすい問題を先に処理したい。それに比べると問2は比較的易しい。

〔III〕

「もし人が突然1フィートずつ上昇しはじめたらどうなりますか？」という質問にサイエンスライターが回答した英文の読解問題。レベル的には大問〔I〕と同じくらいか。多少の算数的要素も含まれる。

〔IV〕

問1はアクセント問題。比較的易しい。問2は文法知識を問う短文空欄補充選択問題。こちらも、センター試験よりもやや易しいくらい。問3は整序英作文。(4)以外はかなり易しい。

〔V〕

「新旧のコンクリート技術」に関する英文読解問題。こちらも先の2つの長文読解の大問と同じくらいのレベル。比較的読みやすい。

～全体を通して～

分量はやや多いかもしれませんが、90分という長い試験時間を考えると、何とか時間内に収めたいところです。長文読解の問題が多く、その内容も「理系」的なものばかりです。受験勉強として「理系的要素あふれる」長文にできるだけ触れた上で入試に臨めると、なおいっそう良いのではないのでしょうか。